

那覇市重点分野雇用創出事業

地域の力をつなぐまちづくり事業  
事業報告書

事業受託者

特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく

平成 23 年 3 月

# 目次

## 目次

### 第1章 事業の取り組み

---

- 2-1 マチグラー体験プログラムの開発
- 2-2 通り会の結束を高めるシステムづくり
- 2-3 マチグラーの情報収集と発信
- 2-4 マチグラーの魅力の発掘
- 2-5 本事業、及びまちづくりの拠点整備

### 第2章 運営について

---

- 5-1 スタッフ体制
- 5-1 事業推進体制

### 第3章 事業の成果と課題

---

### 第4章 収支概要

---

### 第5章 資料編

---

- 6-1 資料&各事業関係チラシ
- 6-2 新聞等マスコミ掲載記事

# 第1章

## 事業の取り組み

## 各通り情報の一元化と県内外への発信 マチグラー・オフィシャル・ポータルサイト「てくてく通信」

「てくてく通信」は、那覇市中心商店街地域の14の通りの歴史や通り会の基礎情報、イベントのお知らせ等を網羅したコンテンツや、フォトレポート等で構成された県内初のマチグラーに特化したポータルサイトである。また、このサイトで初めてマチグラーの各通り会の情報が一元化された。大きな特徴としては、いつでもどこにいてもマチグラーの情報が手に入り、情報収集、蓄積、活用のツールとして利用できることがあげられる。

サイト開設日：2010年12月2日（木）

運用管理：地域情報エージェント株式会社 協力：那覇市中心商店街連合会

### 【ページ内容】

トップページ、通り情報、写真で語り合う魅力と課題、てくてくのつばやき、てくてく通信について

トップページ



### 写真で語り合う魅力と課題ページへ



マチグラーの魅力、課題とされる写真がUPされる。写真を通してマチグラーについて語り合ったり、情報交換できる。

### てくてくのつばやきページへ

マチグラーのイベント告知、イベント報告、日々の出来事などが掲載される、マチグラーブログページ。



### 通り情報ページへ



第一牧志公設市場周辺14の通り情報がある。通りの歴史、取り組みのほか通りの営業時間や問い合わせ電話番号などが掲載。各通りのフォトレポートが集約されている。

## その他



トップ画面のフォトレポート

【すべて見る】から

フォトレポーターがあげたマチグワーにまつわるフォトレポートを一括してみることができる。

### マチグワー便利マップ

現在作成中。避難所、トイレ、授乳室、銀行ATM、公衆電話を地図上に表示予定。

### てくてく通信についてへ

「てくてく通信について」は、グローバルメニューとリンク。概要、運営主体などが掲載。

## 【てくてく通信データ】

てくてく通信お披露目会

- ・2010年12月10日(金) 連合会理事会
- ・2010年12月16日(木) 事務連絡会議

新聞掲載

- ・2010年12月19日(日) 沖縄タイムス「マチグワー口コミサイト 市民目線の投稿集める」  
沖縄タイムス
- ・2010年12月25日(土) 琉球新報「街の魅力ネット発信」  
フォトレポーター募集方法
- ・てくてく通信てくてくのつばやきページに「フォトレポーター募集」掲載
- ・会議にて声かけ
- ・組合会議にてまちの種通信編集部とてくてく通信の説明時フォトレポーター募集呼びかけ
- ・通り会からの紹介 登録会
- ・チラシを制作し、マチグワー祭にて配布
- ・ラジオで呼び掛け(FMレキオ、FMタイフーン)

2011年3月18日現在

マチグワーフォトレポーター数 21名

フォトレポート数 488枚

魅力レポート数 5枚(コメント 34)

課題レポート数 5枚(コメント 16)

## 【最後に】

初めて見た人が、分かりやすく、利用しやすいサイトを目指した。ページ内容の見直し、画面デザインは何度も修正を重ね、現段階に至る。今後も、フォトレポーターが写真を投稿していくことで、マチグワーの新鮮な情報を見る人に提供することができ、地元の人のみならず来街者にも役立つサイトになっていくことは間違いない。また、フォトレポーターは随時登録可能であり、新しいマチグワー・ファンの受け皿としての活用も期待できる。

地域の力をつなぐまちづくり事業 マチグーの情報収集と発信

【那覇市中心商店街連合会の広報紙制作】

## マチグー情報かわら版とイベントカレンダー でマチグー内の情報を収集・発信・共有

マチグーの情報収集・発信・共有ができる仕組みとして、各通り会や自治会のイベント情報、連合会の取り組み、生活に役立つ一言コメント「虎の巻」などを紙媒体（A4裏表）で発行。各通り会や自治会をはじめ、マチグーの店舗やホテル等へ届けた。

期間：月に1回発行 / 平成22年10月号～平成23年4月号 計7号発行

発行：那覇市中心商店街連合会 編集・制作：マチグー情報館

サイズ：A4サイズ 10月号と11月号は両面モノクロ。12月号以降は両面カラーとなった

### 【主な紙面内容】

- ・連合会の取り組みや各通り会のイベント報告
- ・マチグーで元気に活躍する人物紹介 ・生活に役立つ一言コメント「虎の巻」
- ・各通り会や自治会のイベントのお知らせ「イベントカレンダー」
- ・地域で活動する自治会や地域組織等の紹介

### 【スケジュール（情報収集から配布まで）】

毎月第2木曜日に行われる連合会理事会を編集会議と位置付け、そこで記事内容について検討を行った。



連合会理事会での編集会議の様子

連合会のお知らせは何か？写真は誰にするか？  
イベント報告記事は何にするか？  
商店街で活躍する人物紹介は誰を取り上げるか？ 虎の巻は何にするか？  
組織紹介はどこにするか？ 等を話し合った

毎月第3木曜日に行われている事務連絡会議やなはまちなか振興課でイベント情報を収集



事務連絡会議の様子

事務連絡会議でイベント等の情報収集。  
情報漏れがないよう、そのつどなはまちなか振興課  
や各通り会に連絡を取り、確認を行った。

第3金曜～第4木曜日に、アポ、取材、原稿作成レイアウトを行った。

第4金曜日納品（ただし、イベントの日程により、が変更したことが多々あった）

その後、約2日間で各通り会や自治会などへ配布した。

### 【配布先】

通り会（第一牧志公設市場組合、牧志公設市場衣料部組合、牧志公設市場雑貨部組合、浮島通り会、新栄通商店街振興組合(サンライズなは)、ガープ川中央商店街組合、平和通り商店街振興組合、むつみ橋通り会、うりずん横町・えびす通り会、壺屋やちむん通り会、壺屋陶器事業協同組合、沖映通り商店街振興組合、栄町市場商店街振興組合、国際通り商店街振興組合連合会、市場本通り会、美栄橋商店会）自治会（久茂地小学校区自治会、松尾2丁目自治会、壺屋町民会自治会）施設（那覇市ぶんかテンプス館、壺屋陶芸センター、桜坂劇場、那覇 NPO 活動支援センター、那覇市観光案内所、久茂地児童館・公民館、壺屋児童館、壺屋焼物博物館）その他、銀行、ホテル、ゲストハウス、カフェなど

### 【発行部数】

平成22年10月号（1750部）、11月号（1400部）、12月号（3000部）

平成23年1月号～4月号（各2000部）

### 【最後に】

当初、連合会広報誌は輪転機印刷によるモノクロだったが、マチグラーの人たちの感想はいまひとつだった。途中、なはまち振興課の本庄副参事のアドバイスにより、カラー印刷にしたところ、大きな反響があり、「もっとほしい」とわざわざ取りに見えた通り会や、拡大コピーをして通り会掲示板に張ってくれた通り会があった。また、マチグラーには年配者や個人店主が多いことから、他の通りの情報がこれでわかると大変喜ばれた。以上のことから連合会広報紙「マチグラー情報かわら版」が果たした役割は大きいと考えられる。

地域の力をつなぐまちづくり事業 マチグウーの情報収集と発信  
マチグウー楽会内「マチグウー防災部会」の一環として  
【防災と環境を考えるまち歩き】

## 地域づくりの担い手たちと、ガープ川流域を たどりながら、防災と環境に対する課題共有

昨年8月19日に、ガープ川の鉄砲水事故で4名が亡くなった。ここからマチグウー（那覇・牧志公設市場周辺地域）防災への取り組みがはじまった。今回のまち歩きは、ガープ川流域（暗渠部分も含む）をたどりながら「足元の自然や生活を見直すこと」「命の尊さを考えること」をねらいとして行った。

防災の基盤をなすのは地域力である。今回のまち歩きでは那覇市職員、那覇市議、地元自治会、通り会、研究者、大学関係者、学生、NPO、一般市民とあらゆる職種の地域づくりの担い手が参加し、ともに命の重みを痛感しながら防災と環境に対する課題を共有した。

### 【2010年8月14日（土）16：00～18：00 防災と環境を考えるまち歩き】

ルート：那覇・上間小学校正門前出発 長田 寄宮 与儀公園 農連市場（黙祷） 水上  
店舗 沖映通り ジュンク堂横（献花）

参加者：約30名

主催：マチグウー情報館（NPO法人まちなか研究所わくわく） 沖縄大学地域研究所

\*この取り組みは、8月19日の「清掃と献花」、8月28日の「マチグウー防災部会」へとつなげた。



ガープ川は、那覇市識名・上間一帯に源を発する排水路である。全長は約3km以上。識名から事故が起きた農連市場までの区間は約2kmあり、高低差は約100mとのこと（大阪人間科学大学環境・建築デザイン科教授 片寄俊秀氏より）。そのガープ川の上流域と下流域の違い、上流域が下流域にあたる影響、昨年の事故の状況などを見て歩いた。





亡くなった方が見つかったジュンク堂横では、献花と参加者全員で祈りをささげた。当日は多くのマスコミも同行した。

**【2010年8月19日（木）10:00～12:00 清掃と献花】**



ガープ川鉄砲水事故からちょうど1年にあたる8月19日に、当マチググラー情報館スタッフ、沖縄大学地域研究所職員、および同大の学生、環境NPOエコットのスタッフ計7名が参加。与儀公園から事故現場となった農連市場までガープ川沿いのゴミ拾いをし、環境と命の尊さをあらためて確認しあった。事故現場で献花を行った。



その後、農連中央市場事業協働組合の潮平市場長から、常日頃から1人ひとりが行う命の危機管理の大切さについて話をいただいた。

地域の力をつなぐまちづくり事業 マチグワールの情報収集と発信  
マチグワール楽会内「マチグワール防災部会」の一環として  
【第3回マチグワール防災部会】

## 「災害時における耳の不自由な方への情報伝達」 から考えるマチグワールの課題

昨年のガーブ川鉄砲水事故の記憶を風化させず、マチグワールの地域力と防災・減災力の強化につなげていく公開議論の場として開催。沖縄自立生活センターイルカの酒井ひろ子氏をゲストに招き、難聴疑似体験も行いながら「災害時における耳の不自由な人へいかに災害情報を伝え、被災後の支援をどのように行ったらいいのか」といった話題提供を受けた。

高齢化にともなう難聴者は多いが、その自覚を持たない人もまた多い。マチグワールは独居老人の多い地域であり、防災に取り組むにあたって平常時からの地域のつながりの重要性を確認しあった。

ほかにも県外の事例（兵庫県佐用町の水害）からの教訓、大学生による8月14日の「防災と環境を考えるまち歩き」の報告を行った。

【2010年8月28日（土）14:00～17:00 第3回マチグワール防災部会】



場 所：那覇・にぎわい広場コミュニティルーム

ゲスト：酒井ひろ子氏 沖縄自立生活センターイルカ

参加者：14名（那覇市社協、民生委員、那覇市議、元観光協会職員、沖縄大学地域研究所、  
沖縄大学学生、NPO）

主 催：マチグワール情報館（NPO 法人まちなか研究所わくわく）、沖縄大学地域研究所  
マチグワール楽会

災害時要援護者のなかでも耳の不自由な人に対する支援の課題を参加者が共有した。部会後の振り返りでは、地域のつながりの重要性を再確認し、次の取り組みとして民生委員とともにマチグワールの独居老人をたずねることが提案された。

雑音テープを使った難聴模擬体験では、耳が不自由になると、不安なときは自分が発する音(声)の振動によって安心感を得ようすること。それによって声が大きくなり、避難場所では周囲の健聴者とのいざこざが生じる一因になることを知った。

### 【2010年8月28日(土) 12:00~13:00 ガーブ川幹線水路を訪ねるまち歩き】



場 所：与儀公園四条橋付近 沖映通りマンホール

ガイド：前泊美紀氏 那覇市議

参加者：7名

前泊美紀那覇市議の案内のもと、幹線水路を訪ねた。与儀公園にある四条橋付近から流れ込む雨水の幹線水路は2つ。そのほか、側溝から流れ込んでいると思われる排水口がある。それらが農連市場付近では1本化され、豪雨のときなどは水位や水流の勢いが増す一因となっているとみられた。その後、ガーブ川の流れに沿って、水上店舗を通り、沖映通りへと歩いた。

沖映通りのマンホールは、去年のガーブ川事故の際、開ける事ができなかった。その後、那覇市が人の手でも開けられるように改修したとのこと。

地域の力をつなぐまちづくり事業 マチグーの情報収集と発信

マチグー楽会のイベントとして

## 【マチグー・ガールズ・コレクション】

# 自分に似合うファッションを探し、着こなす 衣料面からマチグーを活性化する取り組み

マチグーには数え切れないほどの衣料品店があり、価格や購買者層に応じた安価な店、古着屋など、店舗スタイルも多様だ。10代の若者は、公設市場を知らなければ、辺り一帯の市場に足を踏み入れたことがないという人もいる。衣料を通してマチグーの利便性を、地元人、来街者に広くアピールし、マチグーの内と外から衣料を通じた活性化を促すことを目的として行った。「本当に自分の雰囲気や体型などに合ったファッションは何か？」をマチグーで探し、着こなし、新しい自分を発見することを「市場カワイイ」と定義づけ、「マチグー・ガールズ・コレクション」を開催した。

日時：2011年2月5日（土）11：00～18：30

場所：にぎわい広場、コミュニティールーム、マチグー情報館、那覇市第一牧志公設市場周辺

参加費：2,000円程度（衣服購入代）

参加者数：16名（子ども含む）

### 【広報について】

新聞等 / 沖縄タイムス、沖縄タイムス、週刊ほ～むぶらざ、琉球新報、レキオ、株式会社クレスコ・コミュニケーションズ（観光サポーター事業「What`s Up!Okinawa」）

ラジオ / FMレキオ、OCN、RBCラジオ、ラジオ沖縄

ブログ / h style(ラジオ沖縄パーソナリティー本村ひろみさん)、ポランチュねっと、ぴらつか暦、マチグー楽会、てくてく通信  
その他 / (株)ムービータイムウォーカー情報部(ドコモiコンシェル日刊ウォーカー)、チラシ(489枚)配布



### 【当日のプログラム】

- 1 オリエンテーション+「自分に似合うファッションを見つけよう」講座
- 2 マチグーの古着屋や格安衣料品店で自分に似合う衣料を探す
- 3 着替え&ヘアメイク
- 4 プロの講師によるウォーキング講座
- 5 マチグーを舞台にファッションショー（マチグーを道ジュネー）
- 6 ファッションポイント解説
- 7 ミニ交流会



1. オリエンテーション+「自分に似合うファッションを見つけよう」講座



2. マチグラーの古着屋や格安衣料品店で自分に似合う衣料を探す



3. 着替え&ヘアメイク



4. ウォーキング講座



5. ファッションショー(マチグラーを道ジュネー)



6. ファッションポイント解説



7. ミニ交流会

### 【本イベントが掲載された媒体】

新聞/琉球新報「ryu ryu」、沖縄タイムス「週刊ほ〜むぷらざ」

雑誌/おきなわいちば

WEB/CALEND OKINAWA、What`s Up!Okinawa、You Tube

### 【最後に】

マチグラー・ガールズ・コレクションは後日、新聞、雑誌、WEBサイトで取り上げられた。マチグラーの方々からの反響も大きく、「来年もぜひやってほしい」という声を多数いただいた。参加者は商店街で働いている方や、スタッフの友人、口コミで集まったの方々。子供の参加もあり、幅広い世代が交流できるにぎやかなイベントになった。「マチグラーにこんなに安くて、お洒落な服が揃っている店があるとは知らなかった」「また、絶対きます」と、参加者たちは皆マチグラーの新たな魅力を発見できたことに喜んでいる様子だった。

今回のイベントでマチグラーは、食の面だけでなく、衣料面においても活用でき幅広い年齢が楽しめる場所だということを広く発信することができた。

【第3回マチグラー楽会】

## マチグラーに関わる調査・研究・イベントなどの取り組みを地域の人たちと共有し、交流を図り、発信する

【1日目：2011年2月11日（祝・金）】

15:00～15:30 オープニングセッション（参加者数：60名）



マチグラー楽会運営委員長小松かおり（静岡大学人文学部准教授）より開会宣言。翁長雄志那覇市長より「さらなるマチグラーの活性化を望んでいる」といった来賓挨拶があり、続いて那覇市中心商店街連合会の富川安盛会長、第一牧志公設市場組合の上原正敏組合長からも挨拶をいただいた。司会は、フリーアナウンサーの諸見里杉子氏が行った。

15:30～16:30 基調講演『市場で健康』～栄町市場の取り組みから～（参加者数：60名）



栄町市場商店街振興組合の備瀬武敬理事長と、同組合の黒島浩事務局長に登壇いただき、病院と連携した活性化プロジェクトについて話をうかがった。会場には多くの人がつめかけ、食い入るように耳を傾けていた。

17:00～19:00 交流もあい（参加者数：27名）



第一牧志公設市場2階にあるさくら亭を会場に「沖縄の上等売る」「市場とは関係がないかもしれないけれど・・・」「マチグラー・ガールズ・コレクションを終えて」の3つのテーマごとにテーブルを設置。食事をしながらのざっくばらんな雰囲気の中、交流が行われた。



## 【2日目：2011年2月12日（土）】

10:00～12:00 アチネー(商い)部会（参加者数：19名）

にぎわい広場・コミュニティルームにおいて、高齢者の買い物をテーマに開催。参加したのは市場業者、民生委員、大学、自治会、買物支援を行っているNPOなど。松尾2丁目自治会の仲宗根政博会長代行の情報提供から議論が深められた。

13:00～17:20 活動報告会「ウッサクウツタイ（おもしろいこといっぱい）マチグワー」

（参加者数：101名）

たんぼぼ保育園の園児たちのかわいいお遊戯で幕開け。中学生、大学生、研究者、商業者、民間企業、行政、NPOなどがマチグワーに関連した報告を行った。栗国智光副運営委員長の閉会挨拶の後には、琉球風車（カジマヤー）の勇壮な演舞が行われ、多くの人を魅了した。



## 【両日とも】

マチグワー似顔絵コレクション

総合学園ヒューマンアカデミー那覇校の学生たちによる、マチグワーで働く方々の似顔絵展も同時開催。市場関係者だけでなく、通りすがりの観光客も思わず見入っていた。



地域の力をつなぐまちづくり事業 本事業、及びまちづくりの拠点整備  
【マチグゥー情報館】

## 情報収集・発信・蓄積の場所であり、地域の人たちが 集ったマチグゥーの中のまちづくり拠点として

平成 22 年 6 月 7 日那覇市と「沖縄県緊急雇用創出事業」に基づく「地域の力をつなぐまちづくり事業」の委託契約を請け、にぎわい広場に事務所を設置。委託業務期間は平成 23 年 3 月 31 日までとし、マチグゥーの中にある立地を生かし那覇市中心商店街の活力あるまちづくりのため通り会と地域の資源・魅力の掘り起こしを行っていく。



マチグゥー情報館の手書きの看板と、出入り口引き戸には、通り会、地域等の色々なイベント、呼びかけのポスター、チラシを貼って情報の収集、発信を図る。館内には、マチグゥー関連の書籍や資料等の他に、近在の店舗や施設のチラシや地図を置き、誰でも閲覧やコピーができるようにした。スタート当初は観光客が道、店を訪ねたり、地元の方や通りすがりの方が覗いたり、時間をかけて沖縄本を閲覧していたが、事業の繁忙とともに状況は変わっていった。



平成 22 年 6 月、プロジェクトマネージャー、7、8 月、事業スタッフ 2 名、新規雇用し、体験・調査担当は求人中。机、椅子搬入、PC 等搬入、ネットワーク構築後、「マチグゥー情報館」の名



称で本格稼働。追って2名、新規雇用。事業種目ごとのスタッフが揃い、活力あるマチグラーづくり、魅力発掘へとそれぞれマチグラーの通りから通りへと駆け回る毎日。紙媒体である連合広報紙「マチグラー情報かわら版」は2010年9月号より2011年4月号まで取材・発行。ポータルサイト「てくてく通信」は市場のなかの方たちのフォトレポーター登録者も沢山いて情報の共有化、自分たちの手によるまちづくりへと繋げていく道具となり得るよう完成をみる。

#### マチグラー情報館基礎情報

開館時間 10:00~19:00

休館日 水・日・祝日・年末年始・他

#### 事業期間（H22/8～H23/2）来館者データ

カウント日数 106日（1日平均 3.6名）

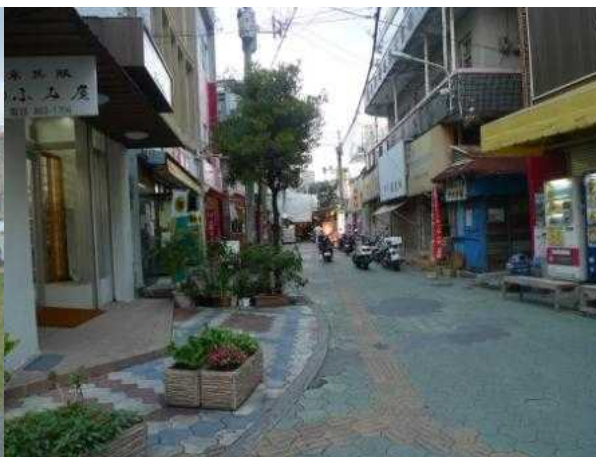
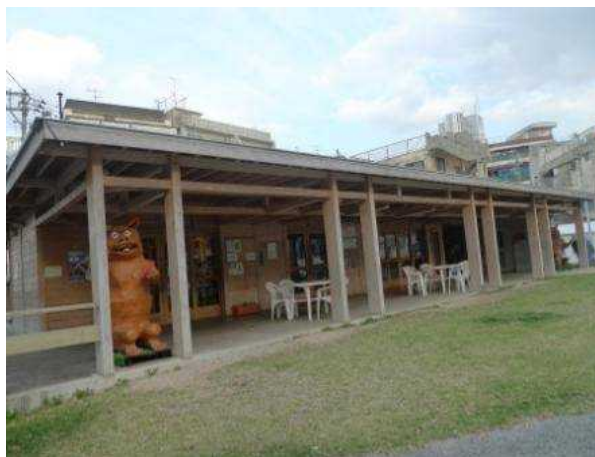
来館者総数 377名（男性230名、女性147名）

来館目的 仕事164名 道に迷って30名 トイレの問い合わせ32名

その他151名



打ち合わせ・ミーティング・会議 etc.  
那覇市中心商店街連合会担当者との打ち合わせ、事業スタッフの週例ミーティング、各事業種目ごとのミーティング、なはまちなか振興課・那覇市中心商店街連合会・NPO 法人まちなか研究所わくわくの「地域の力をつなぐ事業運営協議会」と数多くの話し合いがもたれて、精度の高い成果物が生み出されていった。



にぎわい広場は、マチグラーの中にもありながらも商店街の端に位置していたため、地域の人たちがふらっと訪れやすく、そこで話された世間話が事業に結びついていくということもあった。多くの人に親しまれる場所に位置していたことが、本事業の成果に大きな役割を果たしてくれた。

地域の力をつなぐまちづくり事業 マチグラー体験プログラムの開発  
【マチグラー職場体験オリエンテーション・プログラム】

## 大学生が沖縄の生活文化の伝達者となり、 中学生のマチグラー職場体験をサポート

5年前、修学旅行生のからはじまった「マチグラー職場体験」は、現在、主な対象者が県内中学生となり、総合学習の一環として行われている。しかし、「職場体験を通して就労意識を高め、将来の進路決定の一助にしたい」という学校側と、「マチグラーを知り、来街者の増加につなげたい」という受け入れ側の思いには若干のずれ違いがある。また、中学生の親世代にはマチグラーへ行ったことがない人も多く、従ってマチグラーを知る中学生も少ない。にも関わらず、中学生に事前の説明なく職場体験が行われているのが現状だ。

本プログラムは大人ではなく、中学生にとってお兄さんお姉さん世代にあたる大学生がそのずれ違いを埋め、マチグラーへの理解を深めるという県内初の試みである。

### 【2010年8月9日（月）沖大生の職場体験】



オリエンテーション・プログラムを考える前に、まず、大学生（沖縄大学）自らがマチグラーで職場体験を行った。大学生達にとっては初めての経験であり、事後の振り返りでは「中学生の気持ちを知るうえでもいい学びとなった」という感想が聞かれた。

### 【2010年8月26日（木）14:00～16:00 オリエンテーション本番】



大学生が古蔵中学校でオリエンテーションを行う。ゲームや寸劇などを通し、第一公設市場の1日や歴史を、中学生にわかりやすく紹介。90分間という長時間にも関わらず、中学生はだれることもなく、集中して聞いていた。ときには笑い声が起こることもあった。

### 【2010年9月1日(水)・2日(木) 職場体験本番 + 振り返り】



職場体験は鮮魚店、果物店、土産店、食堂などで行われた。最終日の振り返りでは、大学生が中学生の本音を聞きだし、挨拶の仕方や仕事・接客の大変さなどについて、より深い学びに導いた。また、周囲の大人がやさしく接してくれたことへの感謝や積極性が生まれたといった感想もあり、中でも「父さんも毎日、仕事が大変なんだろうな」には、関係者一同が感動した。

### 【2010年9月16日(木) 14:00~16:00 事務連絡会議での報告】

大学生の取り組みを多くのマチグワの商業者に知ってもらい、かつ情報共有をするべく、定例事務連絡会議(主催:那覇市なはまちなか振興課)で、大学生自らが中学生の職場体験とオリエンテーションの報告を行った。

### 【2010年9月22日(水) 15:00~ 職場体験振り返り】

沖縄大学地域研究所で、大学生の振り返りを行った。1)事前準備、2)市場との関係づくり、3)中学校との連絡、4)大学生の職場体験、5)グッズツール、6)中学校での出前オリエンテーション、7)中学生の職場体験、8)中学生の振り返り、9)マチグワ報告会(事務連絡会議)の各項目ごとに「Good job」「Improvement」を出し、次年度に活用できるよう話し合った。

### 【2011年2月12日(土) 13:00~17:20 第3回マチグワ楽会 活動報告会】



職場体験オリエンテーションを行った沖大生の中から4年次の小林憲生さんが「古蔵中学校マチグワ職場体験報告 大学生から中学生へ伝えるマチグワの思い」と題して、一連の取り組みの報告を行った。参加者からは「学生なのに、教員の発表を聞いているようだった」と、高い評価を得た。

## マチグワをつくりあげてきた年配者たちの 記憶を記録し、次世代に継承する

### 【冊子編集の目的】

戦後、那覇復興の礎となった、那覇市中心商店街地域（マチグワ）の歴史を知る年配者の、貴重な体験を記録し、次世代に継承することを目的とする。継承の方法として、マチグワで職場体験をする中学2年生に、職場体験の前にマチグワの歴史を学び、職場体験を有意義なものとしてもらうための教科書副読本として制作する。同時に、マチグワを身近に感じてもらうことによって、その活性化を促すきっかけづくりに役立ててもらう。

### 【対象者の選定】

聞き取り対象者のリストアップは、プロジェクトリーダーの中嶋から、那覇市中心商店街連合会事務局長粟国智光氏に依頼した。聞き取り担当者はスムーズに調査を進めるため、まず、紹介者と共に聞き取り対象者を訪ねて顔を覚えてもらうことから始めた。担当者は日常も通りを歩いて買い物をするなど、市場になじむことを心掛けたが、取材依頼については様々な事情で承諾をもらえないことが多く、調査の難しさを実感した。

そこで、スタッフが各通り会の窓口となっている方々に直接頼み、事前に連絡、あるいは同行してもらった上で取材の依頼をし、承諾をもらえた方々を加えて、今回の19名となった。

### 【印刷会社の選定】

印刷費用は3社に合い見積もりを取り、デザイナーが制作に関わってくれることと、品質の高さから、光文堂コミュニケーションズ株式会社に依頼することとなった。また、当初は表紙2色、本文ページ1色の予定だったが、当方がラフを制作することで経費を抑え、表紙4色、本文ページ2色での印刷が可能となった。

### 【構成】



今回の聞き取りでは1950~60年代の地図を持参し、対象者に見てもらいながら調査を行い、各自の思い出の場所や、対象者の営む店などをマークした。その過程で、地図を使うことで、マチグワの様子が、より実感を持って読み手に伝えられると考えて、冊子の中間ページに地図を掲載し、登場する人々の思い出の場所を書き入れることにした。加えて、時代の変遷と全容を把握できるように、巻末に年表を掲載。各ページに、その通りの当時がわかる写真

と、脚注を入れ、読みにくい語句にルビを入れた。

また、那覇市中心商店街の成り立ちを理解する上において、はずすことのできないガープ川と水上店舗、第一牧志公設市場の歴史について、簡略にまとめた文を巻頭に導入した。

## 【ワークシートの導入】

冊子の編集において、スタッフが最も心を砕いたのは、この冊子が図書館に眠ることなく、教育の現場で実用に耐える冊子として完成させることだったため、興南中学校でよのなか科を担当する東濱克紀氏にサンプル原稿に目を通してもらえるようお願いした。

東濱氏によれば、授業に役立ててほしいとの目的で送付されてくる本書のような冊子は多いが、それをカリキュラムに組み入れるには、教師の授業計画にかかる時間も割かねばならないため、教師にとっても使いやすい冊子にする必要があるとのことだった。そこで、同校で行われている「よのなか科」(中学校の公民分野の授業)で使用しているワークシートを手本にしたページを導入してはどうか、との提案をいただいた。この授業は1つのテーマにそって、生徒がグループ同士でディベートをしたり、自由な発想で企画を立てるなど、画期的なものだった。スタッフはマチグー活性化への可能性を盛り込めると確信し、冊子の内容に合わせて東濱氏にワークシート案の作成を依頼した。



その後、東濱氏と数回会議を持ち、作成されたシートを使って、試験的によのなか科で授業を行っていただいた。生徒からは、ユニークな企画が次々に出された。この授業で使用されたワークシート案をもとに、栄町市場の活性化に取り組みされた阪井暖子さんのご協力も得て、ワークシートを完成させ、巻末に導入した。

## 【ルビと脚注】

ワークシートから引き続き、東濱氏に協力をいただき、興南中学校の社会科グループ(課外活動)の生徒8名に原稿の抜粋を読んでもらった。脚注項目やルビを入れる語句選定の参考にさせていただいた。アーケード、ブティックなどのカタカナ語や方言がわからないという生徒が多かった。

## 【冊子の完成】

印刷は500部。出来上がった冊子は対象者、協力者及び那覇中心商店街の組合、那覇市内の市立小学校36校、市立中学校18校、私立中学校2校のほか、公民館、図書館などに、配布された。対象者や協力者から、知人に配りたいので販売はしないのか、との質問が多く、好評だった。また翁長市長による定例記者会見にも取り上げられ「栄町市場も取り上げてあり、子どもの頃を思い出して懐かしく読んだ。増刷をしたい」と冊子を紹介していただいた。

## 【最後に】

この冊子は、たくさんの方々の協力のもとに出来上がった。中学2年生を対象として制作されてはいるが、大人が読んでも楽しめる内容に仕上がった。それは、ひとえに、聞き取り調査に応じてくださった年配者の方々のご好意と商店街や通り会、組合の方々のご協力によるものである。社会科学学習以外にも、マチグーを知るための読みものとして、学校での読み聞かせなどにも広く活用してほしい。スタッフ一同、この冊子が次世代の子どもたちへの贈り物となるよう願う。



## 第2章 運営について

## 5 - 1 . 事業推進体制

本事業を推進するために、以下のスタッフを配置した。

### NPO 活動支援センター事業部

- 常 勤：中嶋栄子（プロジェクトマネージャー）2010年6月～2011年3月  
大城民江（総務・経理）2010年7月～2011年3月  
堅隆（那覇市中心商店街連合会広報紙・他）2010年8月～2011年3月  
具志佳乃（てくてく通信・他）2010年10月～2011年3月  
米谷綾子（聞き取り調査・他）2010年10月～2011年3月
  
- 非常勤：城間秋乃（事業サポート）2010年10月～2011年3月  
西野美和子（聞き取り調査）2010年12月～2011年3月



## 第3章

### 事業の成果と課題

### 3 - 1 . 事業の成果と課題

#### 職場体験を通じた大学生の関わり

沖縄大学と連携し、中学生の職場体験の受け入れとふりかえりのプログラムを大学生とともに開発し、行った。これまでの中学校と通り会という2者だけでなく、そこに大学と当NPOが関わることで、職場体験プログラム自体の質の向上と大学生がマチグワーに関わる機会をつくることができた。継続するための双方の体制やコスト配分が課題である。

#### 那覇市中心商店街連合会に新しい動き

マチグワーの通り会の連合組織である「那覇市中心商店街連合会」は2009年度に休眠状態から再始動した。連合会の存在をマチグワー内に周知し、連合会としての取り組みを組み込むことで、理事会の定例開催を促した。そうする中で、マチグワー振興チームが発足するなど、役員以外の関わりと取り組みが生まれつつある。

#### 情報を集約する基盤としての「てくてく通信」の構築

昨年度まで取り組んできたまちなかWEBは事務局が取材し、情報を発信するという事務局に依存する情報発信のしくみであったが、那覇まちのたね通信と連携することで、マチグワーに関わり、関心のある市民が情報を発信する仕組みを構築できた。今後の運営コストや主体について検討する必要がある。

#### 第3回マチグワー楽会の開催

マチグワー楽会の第3回を開催する中で、マチグワー・ガールズ・コレクションやオープニングセッションなど、新しい取り組みに挑戦することができた。マチグワーの中と外をつなぎ、マチグワーでの取り組みを共有する場として定着しつつあり、今後自立した運営が求められる。マチグワーで商売されている方の多様な参加の在り方と広がりが課題である。

#### 情報発信の基盤の活用

てくてく通信やマチグワー楽会などの情報受発信の基盤が整いつつある。これらを活用し、情報と組み合わせたマチグワーの活性化や次にくるまちの変化に対応するための取り組みが求められる。

#### 19人が語るマチグワーの歴史を発行

これまでもマチグワーの年配者の聞き取りをしたい、という話が出ていたが、実現にはいたらなかった。本事業によって、個人の生活史としてのマチグワーを形にすることができた。冊子の形態も中学生の職場体験時に活用できるように配慮しており、今後のマチグワーでの職場体験を含めたプログラムのテキストとしての活用が期待される。

## 第 4 章

### 收支概要



# 第 5 章

## 資料編





那覇市重点分野雇用創出事業  
地域の力をつなぐまちづくり事業 事業報告書

平成 23 年 3 月

事業受託者 特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく

〒902-0065 沖縄県那覇市壺屋 1 丁目 7 - 20-103

TEL:098 - 861 - 1469

E-mail : office@machiwaku.com